

# 総務教育常任委員会資料 (平成29年12月19日)

【項目】	ページ
1 平成29年度第2回パートナー県政推進会議の開催結果について	【県民課】・・・1
2 小さな拠点の取組状況について	【とっとり暮らし支援課】・・・3



## 平成29年度第2回パートナー県政推進会議の開催結果について

平成29年12月19日

県 民 課

「県政は県民のパートナー・地域のパートナー」であることを原点として制定した鳥取県民参画基本条例の基本理念に基づき、県政への県民意見の反映や県民と県政との協働のあり方について議論を深め、施策の改善を検討するため設置された「パートナー県政推進会議」の第2回目の会議を開催し、鳥取県の元気づくり施策の深化について意見交換を行いました。

### 1 日時・場所

(1) 日 時 平成29年12月3日（日）午後3時30分から5時30分まで

(2) 場 所 ホテルモナーク鳥取

(3) 出席者 委員13名、知事、元気づくり総本部長ほか

### 2 主な意見等

項目	主な意見等
若者の転出超過対策	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県外出身の学生が本県に残りたいと思うようになってきていると感じる。若者を定着させるには教育の現場が大事である。例えば、スポーツの第一人者に移住してもらえれば、スポーツ関係の人を増やし、定着にも繋がるし、“本物”に触れることができる教育にもなる。</li><li>・ 高校生の県内定着のため、県内企業の情報を知るためのイベント等を行ってほしい。</li></ul>
人材不足解消	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者、障がい者、児童等一体の共生型施設で3つのサービスを提供しようとする、それぞれに対する有資格者等が必要となるが、働き手がいなくて困っている。実態に合わせて、1人2役を可能とする等の規制緩和ができないか。</li><li>・ 西部では求職者1名に対して、求人が2社という状況である。高校新卒者を一から育てるつもりで求人している。</li></ul>
観光戦略	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 海外の観光客を増やすには、外国人観光客に直接聞いてみるのが最も有効だと思う。</li><li>・ 風紋広場で砂像展示を行ったが、地元住民に砂の文化が浸透していないことが分かった。砂丘を売り込むためにも、今後10年の砂丘活用ビジョンのようなものを作るべきではないか。</li></ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自然環境保全に対する県民意識のさらなる向上が必要と感じる。</li><li>・ 保育料の無償化はありがたいが、すべて無償化まではせず、病児病後児やお泊り等のサービス充実にもっと力を入れてほしい。</li><li>・ 鳥取県は一人ひとりの住民の意見に対して応えてくれている。より多くの人に県政をもっと身近なものに感じてもらい、県民が県政に参画する仕組みや触れる機会が増えるといい。</li></ul>

### 3 今後の予定

会議で頂いた意見等については、県施策等に反映できないか検討する。

#### 【会議の様子】



## 4 委員

〔18名、50音順〕

氏名	所属等	備考
大生 唯統 (おおばえ ゆいと)	公立鳥取環境大学	
上所 俊樹 (かみじょ としき)	倉吉市地域おこし協力隊	
衣笠 優子 (きぬがさ ゆうこ)	絵本と食育「はらべこあおむし」 代表	
沢口 沙理 (さわぐち さり)	鳥取大学	欠席
薛 幸夫 (そる へんぶ)	在日大韓国民団鳥取地方本部 団長	欠席
高虫 秀樹 (たかむし ひでき)	鳥取県稲作経営者会議 会長	
田淵 裕章 (たぶち ひろあき)	株式会社田淵金物 代表取締役	
出口 七愛 (でぐち ななえ)	米子西高等学校	
徳本 敦子 (とくもと あつこ)	森のようちえん・風りんりん 代表	
野口 さやか (のぐち さやか)	公立鳥取環境大学	
野口 智恵子 (のぐち ちえこ)	三八市実行委員会 代表	
原田 文恵 (はらだ ふみえ)	株式会社LASSIC 取締役	
東根 ちよ (ひがしね ちよ)	鳥取大学地域学部 講師	欠席
古田 琢也 (ふるた たくや)	株式会社トリクミ 代表取締役	欠席
森高 菜月 (もりたか なつき)	米子西高等学校	
山下 弘彦 (やました ひろひこ)	日野ボランティア・ネットワーク	
山下 理代 (やました りよ)	小鴨保育園 保護者	欠席
渡部 真哉 (わたなべ しんや)	特定非営利活動法人あかり広場 副代表	

# 小さな拠点の取組状況について

平成29年12月19日  
とっとり暮らし支援課

このたび、八頭町隼地区において、地域、企業、行政が一体となって、地域の子どもから高齢者まで多世代が集まるコミュニティづくりや地域課題の解決、新たな産業・雇用を創出するための小さな拠点となる「隼 Lab.(はやぶさらぼ)」が12月10日(日)に開所し、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らし続けられる中山間地域における「小さな拠点」の取組として展開されることとなりました。

今後も、小さな拠点の全県展開(30箇所)に向けて取組を進めます。

## 1 隼 Lab. (はやぶさらぼ) の概要

平成29年3月に閉校した旧隼小学校の校舎を地域の交流拠点として活用し、住み慣れた地域で安心して健康にいつまでも暮らせる地域となるよう隼地区まちづくり委員会が、子どもと高齢者の多世代交流や、医療機関の理学療法士の指導を受けながら健康体操を行う高齢者サロンを実施する。

また新たに、地元住民による椎茸栽培や、見守りと併せた宅配サービスを検討している。

併せて、新たな産業・雇用の創出のため、シェアオフィスや多種多様な企業などが集まるコワーキングスペースとして使用する。

〔隼 Lab. の入居企業と団体〕

- ・隼地区まちづくり委員会(地域福祉他)
- ・(株)シーセブンハヤブサ(隼 Lab. 運営)
- ・(株)アクシス(システム開発)
- ・ネクストシフト(株)(社会貢献事業への投資)
- ・日中東北物産(株)(飼料、融雪剤等)
- ・(株)クリエイターズマッチ(インターネット広告、クリエイター育成)
- ・(公社)鳥取県看護協会(訪問看護・がんカフェ)
- ・(株)トリクミ(カフェ・宿泊施設運営)
- ・ビーフリー(株)(無線システム設計)
- ・(株)鳥取クリエイティブ研究所
- ・(株)SI エージェンシー(アプリ開発)

<12月10日に行われた隼 Lab. オープニングセレモニーの様子>



## 2 「小さな拠点」の取組状況

	市町村 地区名	取組状況	拠点化
1	岩美町	道の駅を拠点に移動販売と見守りを実施するとともに、地域の高齢女性が運営する漁村カフェサロンを開設し、岩美病院とITネットワークでつなぎ健康講座を実施している。農村サロン及び漁村加工場の開設により高齢者や障がい者の雇用の場を確保した。 更なる発展に向けて、高齢者・障がい者・子育て中の方が交流、サポートしながら働くことのできる施設「ユニバーサルデザインしごと・交流センター(仮称)」を整備している。	平成29年 3月30日
2	江府町	移動販売車に看護師が同乗して健康相談を行う看護の宅配便を実施するとともに、地域の高齢者の困り事を解決するための住民ボランティアを育成する人財育成塾を高齢者サロンに併設して開設した。 更なる発展に向けて、現在、旧小学校を活用して移動診療所や地域の交流拠点の設置、道の駅等への集荷の貨客混載に向けて検討している。	平成29年 4月14日

	市町村 地区名	取組状況	拠点化 (予定)
3	八頭町 大御門	高齢者の健康教室や音楽療法、子育て親子と高齢者との世代間交流サロンの充実により、住み慣れた地域で多世代がいつまでも暮らせる地域づくりに取り組んでいる。さらにこの取組を発展させるため、地域住民による高齢者の送迎サービスの充実を進めている。	平成 29 年 8 月 17 日
4	八頭町 私都（上・ 中・下）	高齢者の認知症予防講座、地域の子どもの交流、料理教室等高齢者が集うサロンの充実や、子どもの居場所づくり等により多世代が住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域づくりに取り組んでいる。さらにこの取組を発展させるため、現在、地域住民による高齢者の送迎サービスの充実を進めている。	平成 29 年 8 月 17 日
5	八頭町 東郡家	高齢者の音楽を通じた交流や認知症予防講座、健康体操等高齢者サロンの充実や地域の子どもの世代間交流、鳥取環境大学や鳥取医療技術専門学校などの学生ボランティアとの交流などにより住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域づくりに取り組んでいる。さらにこの取組を発展させるため、地域住民による高齢者の送迎サービスの充実を進めている。	平成 29 年 8 月 17 日
6	八頭町 大江	現在の高齢者サロンの取組を発展し、介護予防や独居高齢者への地域で収穫された余剰野菜の配布や見守りによる安心の地域づくりを充実させるため、拠点となる旧保育所を改修している。	平成 30 年 3 月
7	琴浦町 古布庄	高齢者でも気軽に利用できるカフェの運営や体操教室を核とした健康増進の取組による安心して楽しく暮らしていける地域づくりを充実させるため、拠点施設を改修している。	平成 30 年 3 月
8	大山町 高麗	高齢者サロン、配食サービス、朝市や美術教室など多世代の交流による安全・安心に楽しく暮らせる地域づくりを充実させるため、中核となる担い手を育成している。	平成 30 年 3 月
9	大山町 庄内	高齢者が集うサロンを発展した健康づくりの充実により住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域づくりを進めるため、拠点の環境整備（芝生化等）を実施している。	平成 30 年 3 月
10	大山町 逢阪	交流サロン、コミュニティ食堂、きち基地（こどもの居場所）で高齢者の健康づくり、子育て支援の充実により住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域づくりを進めるため、拠点の環境整備（芝生化等）を実施している。	平成 30 年 3 月
11	南部町 賀野	高齢者買い物支援、子供の学習支援による多世代共助の仕組みと農産物加工販売による収入確保の地域運営に取り組むための拠点となる施設を新たに建設している。	平成 30 年 3 月
12	南部町 長田・ 東長田	まちの保健室、健康づくり教室、配食、共助交通等を行い高齢者がより住み慣れた地域でいつまでも暮らせる地域となるよう、新たに庭先集荷や都市住民との交流活動体制を整備している。	平成 30 年 3 月
13	南部町 東西町	コミュニティホーム、放課後児童クラブ、健康講座、買い物支援、災害時の要援護者の支援など、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域づくりのための体制を整備している。	平成 30 年 3 月
14	伯耆町 日光	農産物加工販売による収入確保や都市との交流、高齢者の居場所づくりによる安心な暮らし確保のための取組を充実させるよう拠点となる施設を改修している。	平成 30 年 3 月

その他検討を進めている市町村

鳥取市、智頭町、湯梨浜町、琴浦町、大山町、日南町